



平成 20 年 5 月 15 日

各 位

東燃ゼネラル石油株式会社  
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号  
代表取締役社長 鈴木 一夫  
(コード番号: 東証第一部 5012)  
問合せ先:  
エクソンモービル有限会社  
広報渉外部  
Tel: 03-6713-4400

## 東燃ゼネラル石油(株)平成 20 年 1-3 月期 業績に関するお知らせ

東燃ゼネラル石油株式会社は、平成 20 年 1-3 月期の連結決算を下記の通りお知らせ致します。

記

### 1. 東燃ゼネラル石油(株)平成 20 年 1-3 月期連結業績概況

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 20 年 1-3 月期(A)	8,775	627	688	406
平成 19 年 1-3 月期(B)	7,088	225	236	144
増減額(A-B)	1,686	402	452	263
増減率	23.8%	178.6%	191.5%	183.2%

#### 売上高

連結売上高は、原油価格動向を反映した製品価格の上昇に伴い、前年同期比 1,686 億円増の 8,775 億円となりました。国内の需要が低迷する中、販売数量は減少しましたが、輸出数量の増加がこの一部を相殺しました。

## **営業利益**

連結営業利益は、前年同期比 402 億円増の 627 億円となりました。主な要因は以下の通りです。

### (1) 石油部門の収益動向

石油部門の収益は前年同期の 57 億円から 533 億円に改善しました。主な要因は次の通りです。

#### 在庫評価の影響

当社は在庫評価の方法として後入先出法に基づく低価法を採用しております。当期の営業利益には、在庫評価方法による 533 億円の増益要因が含まれています(前年同期比 449 億円増)。この大きな増益要因は、今後予定されている定期修理等を見込んだ原油在庫の減少に伴うものが多くを占めています。本年 4-6 月期以降において在庫レベルが戻るにつれ、この増益要因の大部分は解消していく見込みです。

#### 市況要因その他

南西石油(株)の株式売却(既報)に伴い、同社の在庫含み益を実現しました。その額は 110 億円であったと想定され、前回 11 月に当株式売却の発表を行った際に予想した 80 億円と比べると、原油および石油製品の価格上昇により増加しています。なお、本年 2 月に発表した平成 20 年 1-12 月期の業績予想にはこの 80 億円が織り込まれております。一方、当該期間における原油価格の急激な上昇が石油製品に完全に反映されず、厳しい事業環境が続いたため、南西石油(株)の株式売却に伴う利益が相殺されました。

### (2) 石油化学部門の収益動向

石油化学部門の収益は 93 億円でした。当部門は全体として堅調に推移しましたが、過去の傾向と比較しても高水準であった前年同期(168 億円)と比べると、基礎石油化学製品(芳香族およびオレフィン類)の-marginが低下しました。

### (3) 経費の増加

経費は前年同期比で 40 億円増加しました。これは主に減価償却費および年金費用の増加によるものです。減価償却費においては、平成 19 年に実施した新規設備増設に伴う影響があったほか、会計基準の変更により約 12 億円を新たに計上しました。

## **経常利益**

営業外損益は主に為替差益により 61 億円の利益となり、この結果経常利益は前年同期比 452 億円増の 688 億円となりました。

## **当期純利益**

当期純利益は前年同期比 263 億円増の 406 億円となりました。

## 2. 平成 20 年 12 月期 中間期/通期の業績予想並びに配当の見通し

平成 20 年 12 月期の業績予想は中間期、通期ともに平成 20 年 2 月 14 日に発表した内容から変更はありません。当期の在庫評価益の大半は 4-6 月期以降に振り戻ることを想定しており、1-3 月期に比べ石油製品のマージンもある程度改善すると見込んでいます。また、1 株あたり年間 38 円の通期の配当見通しについても変更ありません。

以 上